

親と子で読む学年だより

3年、No.9 R1. 9. 6

学年目標「誰からも応援される人になろう！」

～素 敵 な 人 に な ろ う～

～卒業式を感動の涙でいっぱいにして～

〔令和の夏・・・！ 三中生の活躍・・・！〕

令和初の夏、三中生が様々なところで活躍していました。そんな活躍の一部を紹介します。

＜社会を明るくする運動で発表・・・！＞

7月20日（土）に西公民館で「大宮西地区社会を明るくする運動」という会が行われました。地域の方々の前で秋山聡太くんと後藤果乃さんの2名の生徒が「家族」をテーマに日頃自分の思っている家族への感謝の気持ちや理想の家族像など発表しました。その発表を聞いた区長さんを初めとする多くの人達に感動を与えました。とても素晴らしい内容だったので、その原稿の一部を紹介します。全文は文化発表会で発表されますので楽しみにしてください。

「家族」 秋山聡太

突然ですが、みなさんは「理想の家族」についてどう考えていますか。

まず、家族というのは、いつも一緒にいる存在です。私は、理想の家族とは、一緒にいて心が癒され、居心地のよいものだと思います。では、どうしたら、居心地がよいと思えるのか。私は、「価値観」が似ているかどうかだと思います。・・・

（中略）

・・・親や兄弟に求めるばかりでなく、自分も家族の一員として、理想の家族に近づけるように努めていきたいです。

まずは、勉強に励んだり、家族に感謝の気持ちを伝えたりするところから始めていきたいと思っています。



「家庭環境が与える影響」 後藤果乃

「自分の家族は、理想の家族だ。」

そう自信をもって言える人はいますか。友だちと違って、親や兄弟を自分で選んだわけではないのですから、価値観や性格が異なってくるのは当たり前だと思います。私は、母と、好きな歌や芸能人の好みは合うのですが、服の好みはあまり合わず、母が私の洋服を買ってきたとき文句をつけることが小さい頃からありました。・・・

（中略）

・・・皆さんの理想の家族は、どんな家族ですか。私の理想の家族は、「日々ぶつかり合いながらも、いざとなったとき自分のことを助けてくれる家族」です。



＜世界にはばたく子どもたち育成事業へ参加・・・！＞

富士宮市が主催する「世界にはばたく子どもの育成事業」に佐野翔太くんが参加し、7月28日～8月6日までの10日間、ニュージーランド研修に行ってきました。その体験談を紹介します。

「ニュージーランド研修体験談」 佐野翔太

今年の夏、私は、富士宮市が行っているニュージーランド研修に参加しました。ニュージーランドでは、ホームステイをしながら、中学校に通いました。現地の学生と一緒に、マオリ語の授業や体育の授業を行いました。学生たちはとても親切で、毎日楽しく過ごすことができました。ニュージーランドでは積極的に人々に話しかけるようにしました。自分

が完璧な英語を話せたかどうかはわかりませんが、お互いに伝えよう、理解しようという気持ちがあると、言葉は通じ合えるものだなと実感しました。これから私の人生の中で英語はまだまだ長く勉強していく言語です。もっと勉強して、日本語を話すように英語を話せるようになりたいです。そしてまたニュージーランドの家族と友達に会いに行きたいです。



<広島市への中学生派遣事業へ参加・・・！>

富士宮市が「核兵器廃絶平和都市宣言」を制定してから今年で35周年を迎える記念事業として、8月21日～22日に開催された、広島市への中学生派遣事業に富士宮三中を代表して渋谷瀬奈さんが参加しました。

「広島への中学生派遣体験談」 渋谷瀬奈

私は、平和学習のために広島へ行ってきました。そこでは、原爆が落とされたとき、どれほど無惨なことが起きたのか、どれほどの人が苦しんだのか、色々なことを知りました。

唯一、被爆した建物が残っている「本川小学校」にある資料館に行きました。そこでは、被爆してたった一人だけ生き残った生徒の話をお聞かせしてもらい、資料館の中には「黒い雨」の降ったあとが残っていたりしました。小学校で説明してくれた人が、「死んでしまった人も地獄だし、生き残った人も地獄だった」と言っていました。生き残った人まで地獄というのは、信じられないと思いました。

原爆資料館では、原爆で死んでしまった人々の日記や身に付けていた衣服などを見ることができました。実際に見てみると、何とも言えない気持ちになりました。

2日目には、被爆した人たちが治療のために送られた、「似島」という島に行きました。そこには、あまり跡は残ってないけれど、その島の人から話を聴きながら実際の場所を歩きました。その人の最後の話のとき、こんなことを聞かれました。

「目の前で、死にそうになっている人が自分の肉が取れるにも関わらず水が欲しいと言っています。けれど、水をあげると、大抵の人は死んでしまいます。あなたは、どうしますか？」という質問でした。

私は、その質問をされてすぐには答えられませんでした。水をあげれば願いが叶いそのまま死んでいく。水をあげなければ苦しむが、もしかしたら、家族に会えるかもしれない。結局、答えは、出せませんでした。皆さんはどう考えますか？

今回、広島に行って、核兵器・戦争の恐ろしさを知り、このことをいろんな人に伝えなければいけないということが分かりました。私は、二度と戦争が起きないことを願います。



<平和を想う作文コンクールで教育長賞を受賞・・・！>

8月15日の終戦の日に併せて富士宮市では「平和を想う作文コンクール」を実施しています。恒久的世界平和を願い、澤田綺羅さんが自らの思いを作文として発表しました。その作文が見事教育長賞に選ばれましたので紹介します。

「平和とは」 澤田綺羅

「平和とは何か。」そう問われたら一人一人思い浮かべることは違うと思います。多種多様な考えがあり、とらえ方も様々です。

世界にはたくさんの人々がいます。性別も年齢も住む国も住む環境もみんなそれぞれ違います。一人一人に個性があり、様々な考え方があり感情があります。気の合う人や考えが一緒の人、性格が似ている人はいるけど、全て一緒の人は世界に一人もいないと思います。だから争いが起こるのだと思います。それでも相手のことを考えることができれば争いは解決できるはずです。

私の考える平和は、犯罪のない世の中です。犯罪がなければみんな安心して暮らすことができます。安心して暮らせることが一人一人の平和につながっていくと思います。犯罪がなければ安全な街になります。誰もが住みたいと思えるような街がたくさん増えていったらいいなと思います。そして、みんなが幸せに生活できたら平和な世の中になるための大きな一歩になると思います。当たり前のように食事をして、学校へ行き、勉強をして、そんな私たちはすごく幸せです。それをみんなが感じながら生活することが大切だと思います。みんなが幸せだと感じられるためには、相手のことを考えるのが一番です。自分のことばかりではなく、人のことを考えて行動することで嫌な気持ちになる人も減り、笑顔のあふれる暮らしになると思います。

私は笑顔で挨拶をします。すると相手も笑顔で返してくれます。私はすごく嬉しかったし、きっと相手も同じだと思います。「手伝おうか？」「大丈夫？」こんな優しい一言で、言われた人はいい気持ちになります。些細なことでも私は幸せな気持ちになります。皆さんもそうなのではないでしょうか。

一人一人違う人間なのでけんかをすることも争うこともあります。でもそこで少しでも相手のことを思えば何か変わります。犯罪のない世の中にするにも、人のことを考えられる人が増えれば実現できると思います。人々の少しの相手を思う行動が合わされば、たくさんの思いやりになり平和な世の中になると思います。安心・安全に暮らせてみんな幸せに生活できることこそが、本当の平和だと考えます。そしてそんな世の中にしていきたいと思います。

